

令和6年度 長崎県教育振興会議報告書

長崎県教育委員会

教育振興会議における主な意見等

1 キャリア教育、探究的な学びに関すること

委員	事務局	委員から出された意見及び事務局説明
○		企業による学校への出前講座や探究の授業で関わる中で、児童生徒が学校外に出る機会が少ないと感じる。学校の中の勉強はもちろん大事であるが、もっと学校外に出ていって地域の人たちとの交流や高校と小学校、中学校と大学など垣根を越えて多様な関係ができるともっと教育は楽しくなると思う。
	○	学習指導要領で「社会に開かれた教育課程」の実現が求められており、学びを学校の中に留めず、社会といかに連携して豊かな教育を展開していくかが大きなテーマになっている。 高校でも探究の時間等で外部の方々から学ぶような機会も増えてきた。また、アルバイトとインターンシップを組み合わせたバイターンシップの取組を始めた専門高校も出てきている。様々な形で企業の方々と関わり、地域の方々の力も借りながら、キャリア教育に活かしていきたい。
○		本校では探究の時間に地域の企業と共に地域課題の解決に取り組んでおり、高校生の目であらためて地域を見ることで、自分にも何かできることがあるのではないかと気づき、大学では地域創生を学びたいという意欲に繋がった生徒がたくさんいる。高校生が自分のキャリアを考える上で、外に世界に目を向けることは非常に大事である。地域や企業、関係機関の方々がたくさんご協力いただくことで取組みが成り立っていると感じている。

2 幼児教育や家庭教育支援に関すること

委員	事務局	委員から出された意見及び事務局説明
○		中学校でのいじめに関して保護者から相談された話であるが、先生もきちんと対応して双方で和解したはずなのに、その後、再度同じことが起きた。いじめた子は謝れば済むと思っていて、根本的な解決には至っていないという。 いじめを受けた子もかわいそうだけど、ごめんなさいと言えば済むと思って、同じことを何回も繰り返しているその子も、将来どうなるのか心配である。やはり、幼少期からの育ちの過程の中での人間性、人としての育ちというのが大事だと感じる。
○		愛着を結べないまま大人に成長すると、思春期で様々な問題が出てくると言われている。幼児期から親子の関係がしっかりとできていたら、その後、小学校でトラブルが起こっても、うまく対処が出来ると感じる。 保育園には、子どもにとってもいい言葉をかけられる先生が多くいる。ちょっとした言葉がけ、まなざし一つで子どもの心が落ち着くことはたくさんあるので、小学校でもこういった情報をもっと伝えて、かけ橋プログラムの連携もスムーズになるとよいし、子育て世代にも継承していけたらよいと思う。

教育振興会議における主な意見等

3 コミュニティ・スクールに関すること

委員	事務局	委員から出された意見及び事務局説明
○		長崎県は、コミュニティ・スクールの導入率が全国で下から3番目である。コミュニティ・スクールは文科省の中でも、重きを置いて取り組んでいるように思う。コミュニティ・スクールを推進していくことが、様々な教育課題を解決に導いてくれると考えているが、なぜ本県では進まないのか。今後の見通しを教えて欲しい。
	○	本県がコミュニティ・スクールの推進に後ろ向きということは決してなく、学校支援会議という類似機関が既に設置されていたことから、コミュニティ・スクールへの理解が浸透していくのに時間がかかっていた。 今年度、新規事業を立ち上げて、コミュニティ・スクールによる働き方改革を推進している。約1ヶ月前には、全ての市町のコミュニティ・スクール担当者や学校関係者、地域の方も一緒に、先進的な取組を行っている岡山県浅口市へ視察に行ってきた、今、非常に熱い手応えを感じている。 コミュニティ・スクールの導入で学校教育活動はさらに充実し、学校外との繋がりや学校間の繋がりも生まれる。保護者や地域の理解もより一層得られやすくなると考えている。今後、さらにコミュニティ・スクールの推進に力を入れていきたい。

4 障害のある生徒の就職支援に関すること

委員	事務局	委員から出された意見及び事務局説明
○		弊社では、特別支援学校の生徒を実習で受け入れているが、最近は特別な支援が必要な生徒がいる普通高校からの相談がとて多くなってきた。普通高校には実習の制度がないので、高校卒業後の就職が難しく、また、就職してもうまくいかず辞めることも多いと聞く。 特別支援学校は春と秋に実習があり、高等部卒業と同時に雇用ということも出来る。一方、普通高校には実習制度がないが、特別な支援が必要な生徒をどのように就職に結びつけていったらよいのか考える必要があると思う。
	○	高校にも障害者手帳を持っている生徒がおり、発達障害がある入学生も増えている。特別支援教育課が持っているノウハウをそうした高校と共有しながら、就職支援を進めていく必要があると考えている。 また、県立高校のうち7校に通級指導教室を設置し、専門的な教員を配置し、特別なカリキュラムを組んで、いわゆるソーシャルスキルなどのトレーニングを行っている。普通高校での特別な支援を要する生徒の就職支援については、採用前にインターンシップができる制度を設けて対応している。

教育振興会議における主な意見等

5 部活動の地域移行に関すること

委員	事務局	委員から出された意見及び事務局説明
○		部活動の地域移行について、放課後の時間まで学校が全部面倒を見てあげるのではなくて、地域に子どもたちを返して、その中で子どもたちと関わりたい先生は地域のスポーツ・文化活動としてやっていくのが本来の姿だと思う。そこを目指すには、指導員を増やすことも必要であるが、何より社会全体で取り組んでいくことが重要だと感じる。 また、スポーツをしたいと思ってもできる場所がないという課題もある。統廃合となった学校施設などを地域の人たちが利用しやすいようになるとよいと思う。
	○	少子化が急速に進んでおり、チームを編成できない状況が多くあり、合同で大会に出るチームも数多く見られるようになった。子どもたちを地域に戻すという話があったが、学校も含めた地域に子どもたちを戻していくという考えが大切だと思っている。全ての種別種目を1つの団体で抱えることは到底無理なので、できるところから一つ一つ進めていく必要があると考えており、各市町において今検討をしている。 その中で、やはり施設や施設使用料の問題が出てくるので、県としても低廉な額で開放していただくよう検討をお願いしている。

6 教育改革や情報発信に関すること

委員	事務局	委員から出された意見及び事務局説明
○		教育を変えていく方向性をしっかりと打ち出していく必要があると考える。社会全体として子どもたち一人一人を育てていこうという基本理念のようなものを県民全体に広げていくべき。先生は変わってきているかもしれないが、保護者も学校や学びが変わってきていることを知ることが大切。そのためには情報発信をしっかりと行っていくべき。
	○	だんだんと不登校やいじめが増加、低年齢化してきている。教育委員会の所管は小学校から高校、特別支援学校であるが、その段階では対応が難しい面もある。やはり就学前教育からしっかりと考えないといけないと思っている。 幼児教育や家庭教育まで含めて、ある程度具体的な方向性を示していく必要があると感じている。
○		保護者に対しては、ICTによる情報発信を強化していただくと、教育に関する情報がもう少し届きやすい環境になると思う。 今は児童生徒がタブレット端末等を持っているので、学校から保護者への連絡や教育に関する情報発信にも活用できるのではないかと考える。

教育振興会議における主な意見等

7 その他の意見

委員	事務局	委員から出された意見及び事務局説明
○		これからの時代を生きる子どもたちにどのような力を身に付けさせるべきかと考えた場合、やはり授業を変えていかないといけないと感じる。能動的に頭を働かし、主体的に動いて情報を掘みにいくような学びを提供できる授業をやりたい。 長崎市では、もっと授業の交流をやろうということで、近隣の学校でしっかりと繋がって、お互いに質の高い授業づくりを目指すことで、教員のレベルを上げていく取組を始めようとしている。全県下的にこうした取組が進んでいくとよいと感じている。
○		キャリア教育の視点から学校と地域がしっかりと繋がるには、いかに校長が地域と繋がれるかが大きい。ただ、先生は子どもを相手とする学級経営は得意だけど、地域と繋がって多様な方たちと一緒に何かを創り出すことは経験が少ない。 そのためには、営業職の方の意見や話を聞くような管理職の研修が必要なのかもしれないし、コミュニティ・スクールが、OJTとして非常に有効なのかもしれない。また、キャリア支援員のような専門職が学校にいれば、忙しい管理職に変わって、地域としっかりと繋がることができると思う。
○		名前を聞いたことがないような通信制高校が近年すごく増えている。中学校でなかなか学校に行けなかった子が、通信制高校に入学したものの、長く通えないケースや卒業後に家の中にひきこもったような状態で就職に繋がれなかったりする生徒がかなりの数いるという話を専門学校の先生から聞いた。通信制の高校の生徒達にも、その先を何とか支援していける手だてが必要だと感じる。 また、こうした子どもたちのために、公立と私立が一緒に何か新しい学校教育を始めてもよいし、県立が通信制高校を始めてもよいと思う。一人一人の学びを底上げし、保障していくために、今の時代の子どもたちに合ったやり方をいろいろと模索していくとよいと思う。